

500年前、テレジアという女の子がお生まれになりました。

イズコ神父

1515年の3月の28日でした。テレジアという名前を授けられて、その日に生まれた女の子は、大人になった時、教会を震撼させる様な働きをするでしょう。長いカトリック教会の歴史には、幾人かの男性聖人達が『教会博士』に任命されました。聖アウグスチヌス、聖ベルナルド、聖グレゴリオ、聖ヒエロニムス等・・・けれど聖女の中では『教会博士』と認められた方はテレジアだけで、1970年に教皇パウロ六世によって認められたそうです。

スペインのアビラで生まれて、この女の子は若い頃には『シスターになることに非常に反発し』一般の女の子と同じように結婚することを考えていましたが、その間にキリストと出会い、その愛に引き寄せられてしまいました。その時以来シスターになって多くの修道院を建て、数知れない町を歩き、カルメル会の家を数多く創立しました。現在、テレジアの修道院は何百とあり、どこの国に行っても見ることができます。今年の3月の23日には、教皇フランシスコは、彼女の誕生の記念を祝うために二つのメッセージを発表しました。彼女はどんな聖人だったのでしょうか？今の私たちに対して、どんな関係があるのでしょうか？この聖人から私たちの教会を照らす光が何かあるのでしょうか？考えてみましょう。パパ様の答えによりながら。

(1) 祈りについての先生

テレジアは分かりやすい言葉、生きた言葉で祈りについてしばしば書いています。彼女によって、『祈りと言うのは私を愛する方と友情を以て、話したり、親しくなったりすること』。テレジアにとって、祈ると言うことは、或所、或時と結ばれるものではなく、どんな時でも自然に・・・『人に見られないところでしか祈らなければならないなら、大変でしょう』、とも書いています。そうして『たとえ完全な祈り方がなくても、やめないで続けなさい、心が集中できなくても、色々な心配で圧迫されても、祈り続けなさい』、とテレジアは皆に祈りを勧めます。

世界の出来事をただ見ているだけではいけません。

その時代のただ一人の女に過ぎなかった、又体の弱い人であったテレジアは『自分の内にある小さな力を使って』、神の国を探し求めなければ・・・そして、他のシスターにも言いました、『世界を大きな災害が襲っているのに、小さな問題について神さまをうんざりさせないで下さい』と強く戒めました。

(2) 共同体の生活の土台をしっかりしましょう。

本当の共同体、教会の生活がなければ、祈りも宣教の生活もすぐ消えることになるかもしれない、とテレジアは理解していました。だからシスター方に向かって次のように書いています。『ここでは皆が愛し合ったり、皆が助け合ったりしなければなりません・・・自分のことについて心配しないで、自分の楽を求めないで、他人に使えるように』、と謙遜に考えましょう。『謙遜』という言葉ですが、テレジアの説明によって、それは『自分の出来ることを素直に見て、感謝を以て、神さまに感謝しながら一所懸命行

うようにすること』です。

(3) 福音のよるこびと美しさが透き通る様に.

テレジアの生活はその喜び、その美しさを極めて強く表しています。非常に明るい人で、ユーモアも一杯でした。ある夜テレジアは、一人の修道女を連れて旅行をしながら、暗い家に入り休もうとしました。共の修道女は、怖くて震えながら、テレジアに言った。「もし私が今夜この寂しい家で死ぬような事があつたら、どうなさいます・・・」。テレジアは「シスターそんなことがあつたら、その時に考えますから、今は寝ましょう。」

(4) 家族に向かって, 若者に向かってテレジアのメッセージ.

テレジアの両親は熱心な信者でしたが、彼女がまだ子供の時に母は亡くなりました。テレジアには女友達も男友達もたくさんいました。その中の幾人かの友達はテレジアの宣教活動の歩みを強く支えました。そして、現代の若者に向かって、テレジアの色々なメッセージを伝えたいと思います。『勇気のある人は神によって助けられるに違いない・・・若い人と臆病な人はテレジアには合いません。テレジアの模範に従って行こうとする若者は、退屈な中庸を捨てて、大きな目的に向かうように促されます。そうでないと、カエルの様に小さなトカゲで満足して、重い足で歩き、一番大事なものを、素晴らしいものを失ってしまうでしょう・・・。』

(日本語に翻訳されたテレジアの本もあります。梅田の書店、「サンパウロ 大阪宣教センター」で、次の四冊の書が販売されています。Amazon でも購入可) 『創立史』、『完徳の道』、『靈魂の城』、『イエズスの聖テレジア・自叙伝』